A Corpus-based Study of *Get*-passives in English

教科・領域教育専攻
言語系コース（英語）
戸出　千智　　指導教員　眞野　美穂

本研究では英語における *get* 受身文の性質について、*be* 受身文と比較しながら考察する。現代英語には、動詞の *get* を使用した *get* 受身文が存在する。(1)のように、*get* 受身文と *be* 受身文の両方を使用することが可能な場合もある。しかし、この 2 つの受身文の使用法には異なる点も存在する。

(1) a. Mary got shot on purpose.
b. Mary was shot on purpose.
(Lakoff, 1971:156)

先行研究では、*get* 受身文は *be* 受身文と比べて発生が比較的遅く、主に口語体で用いられることや、*get* 受身文では *by* 句の出現が *be* 受身文と比べて少ないことが挙げられている(影山, 2007)。 その他にも(1a)のような *get* 受身文には、文法上の主語の意図や責任が介在すると言われている(Givon and Yang, 1994)。そして、(2)のように *get* 受身文は基本的に無生物主語を取らないことや、無生物主語を取る場合には、*get* 受身文が表す出来事に人が関わっていることなども挙げられている(Givon and Yang, 1994)。

(2) a. A house can be built of stone, brick or clay.
b.*A house can get built of stone, brick or clay.
(Lakoff, 1971:154)

また、*get* 受身文の動詞に関しては、使用される動詞の範囲には制限があり、例えば作成を表す動詞は *get* 受身文の動詞として現れにくいことが指摘されている(影山, 2007)。

このように、*get* 受身文の意味的な特徴については大まかに明らかにされているが、詳細なデータは現時点で見られない。また、*get* 受身文で使用されている動詞の出現頻度、*get* 受身文の時制や相については詳しく検証されていない。そこで、*get* 受身文の特徴を様々な観点から、コーパスを用いて調査を行った。使用したコーパスは The British National Corpus(BNC)である。このコーパスは書き言葉、話し言葉両方の現代英語を集めた 1 億語からなるコーパスである。

本研究では、BNC コーパスを用いて *get* 受身文を検索し、それらにどのような特徴があるのかを様々な観点から調査した。調査した観点は、動詞の種類、現れる名詞の意味的なタイプ、時制と相についてである。

まず、動詞の種類についてである。*get* 受身文に現れる動詞は 5 つの種類に分類される傾向があり、それらの動詞は他動性が高いという

ことがわかった。特に、他のものに衝撃を与える動詞や殺害に関する動詞は、現れた動詞の中でも他動性が高かった。その理由は、それらの動詞は客体に与える影響が大きいからである。他の 3 つの種類の動詞も、上に挙げた 2 種類の動詞と比較すると客体に与える影響は小さいが、他動性を示すものであった。*get* 受身文に現れる動詞の他動性が強い理由は、動詞の *get* 自体の意味に他動性を含むこと、受身文は他動性の高い出来事を表しやすいことが関係しているのではないかと考えられる。

次に、*get* 受身文に現れる名詞の意味的なタイプに関して、以下のようなことが明らかになった。まず、*get* 受身文の主語の位置には、人が現れることが多かった。Silverstein の名詞句階層の議論によると、人以外のものや無生物よりも、人が最も重要であるとされる (Tsunoda, 1991)。このことから、文の中での重要度が高い「人」が主語の位置に現れやすいのではないかと推測できる。

一方で、*get* 受身文の *by* 句の中には人以外の名詞がよく現れるという傾向があった。これは、主語の位置に現れる名詞とは異なる特徴である。文において、付加詞である *by* 句の中に現れる要素は主語よりも重要度が低い。そして、名詞句階層の観点から考えると、人よりも人以外の名詞の方が重要度は低い。これらのことから、*by* 句の中には人以外の名詞が優先的に現れやすいのではないだろうか。

最後に、*get* 受身文の時制と相についての調査結果である。時制に関しては、現在形が最も現れやすく、次いで過去形がよく現れることがわかった。詳しく調査すると、現在形は普段の習慣や近未来を表す例が見られた。一方で、過去形は単純に過去に起こった出来事を表す例が見られた。

これらの結果や分析を通して、*get* 受身文の性質に関して以下のようなことが明らかとなった。まず、*get* 受身文は他動性が高い出来事を表すことができる。他動性の高い出来事自体は、*get* 受身文以外でも表すことができる。*get* 受身文があえて使用される背景には、動詞の *get* 自体が持つ意味と、受身文が持つ機能の両方が関係していると考えられる。

まず、動詞の *get* は何かを獲得する意味が含まれており、それは何かの移動が関わっているので、高い他動性を含む。そして受身文には、能動文で目的語だったものを受身文の主語に格上げするという働きがある。*get* 受身文では、名詞句階層で重要度の高い「人」が主語の位置に、重要度の低い「人以外のもの」が *by* 句の中に現れる傾向があることから、能動文では「人」を主語の位置に配置できない時に、「人」を主語にして焦点を当てるために *get* 受身文を用いるにではないかと推測できる。動詞の *get* を用いて他動性の高い事柄を表し、かつ、名詞句階層で最も重要とされる「人」を主語にするという条件が重なった時に、*get* 受身文が用いられるのではないだろうか。

本研究により、これまで詳細には明らかにされていなかった *get* 受身文の様々な特徴が、BNC コーパスのデータを分析・考察することで判明した。しかし、*get* 受身文の人以外の主語に意図性や責任性はあるのかということや、主に *get* 受身文に現れた 5 種類のタイプに分類されたもの以外の動詞についての詳しい考察は今後の検討課題であり、追調査が必要であろう。